小さな読みもの

六つの情景

たけのこあらのまわりに起こる、六つの短いできごと。



01

くるりと、葉のうら

ひっくり返った一枚の葉

足もとに、細い葉が落ちていました。

風が吹くたびに葉はくるりと裏返ります。表と裏では、少しだけ色が違います。

たけのこあらは、葉が止まるたびに目を向けました。次に風がきた時は、葉のほうが少し遠くへ。

手は伸ばさず、その行き先を見送りました。

02

ちいさな石のふたつ

大きさの違う二つの石

小さな石が二つ、並んでいます。

片方はまあるく、もう片方は少し角ばっています。たけのこあらは指先で、角ばった石をそっと押しました。

まあるい石にぶつかって、こつん。二つの間に、細い隙間ができました。

今度は押さずに、そこに並んだままにしておきます。

03

耳のそばで、ころころ

ころがって止まる木の実

どこからか、ころころと小さな音がしました。

木の実が、一つ転がってきました。たけのこあらの前を通り過ぎて、小さな草のところで止まります。

耳がぴくり。頭のたけのこも、少しそちらへ。

音が止まったあとには、草の間から木の実が半分だけ見えていました。

04

ながい影と、短い影

小枝二本の影を眺める

地面に、小さな枝が二本ありました。

それぞれに影が伸びています。ひとつはすっと長く、ひとつはすぐそこで終わっています。

たけのこあらが手を置くと、今度は小さな手の影が増えました。

手を引っ込めても、枝の影はそのままです。

05

草のあいだに、ひとすじ

草の間から見える細い光

草が重なったところに、細い光が差しています。

光は地面の上で、細長い形になっていました。たけのこあらは伏せたまま、そこに前足を近づけます。

前足の先だけが、明るくなりました。

もう片方の手は、日かげのままです。

06

とおくの雲の、すきま

雲と雲の間の青い空

空に、大きな雲が二つ浮かんでいます。

その間には、細い青色が見えていました。たけのこあらは顔を少し上げます。

雲が動くにつれて、青色はだんだん広くなりました。

しばらくして、空の青いところを、もう一度見上げました。



takenocoara

紙を二枚、重ねて。
半分に折ると、小さな本になります。

個人・家庭・教室・小規模店舗での非営利利用に。
再配布・販売・加工配布・AI学習への利用は禁止。
takenocoara.site/little-room/